



第 61号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

(E-mail)

matsuoka@kosanji.or.jp

たとえ世界が明日終わりであっても、
私ほりんごの木を植える

私の父は昭和五年生まれで今年八十三歳になる。

私が幼いころの父に関する記憶は、いつも難しい本を読んでいた姿がほとんどで、とにかく何かしら勉強していた。

先日も父の部屋に行くと、すぐに取り出せる本棚に六法全書を、その隣には歴史学、宇宙科学、薬学、現代社会学、そして宗教学の本などが部屋のあちこちにあり、読みかけの本が机の上に置いてある。なんでこんなに勉強をするのだろうか」と疑問に思った。

しかし、八十二歳になった今もそれら「難しい本」を読んでいる。人は将来、自分の役にたつために学ぶのではないか？私の場合は平均寿命まで生きるとすれば、勉強すれ

ばあと何十年かは糧となる。だが平均寿命を過ぎた父がなぜ勉強するのか不思議な気持ちがある。

少而学、則壯而有為。壯而学、則老而不衰。
老而学、則死而不朽。

(少にして学ばば、則ち壯にして為すこと有り。壯にして

学ばば則ち老いて衰へず。老いて学ばば則ち死して朽ちず)

若い時に学べば社会に出て役に立つ。中年になって学んだことは老いた時に輝く。そして老いた時に学んだなら、自らの身が減びたとしても、その学びは減ぶことなく跡を残す。

不学便老而衰

(学ばざれば、すなはち老いて衰ふ)

逆に学ばざる者は、いくら若くても生ける屍といえるのであろう。

仏説阿弥陀経に登場する仏弟子

伊藤和美

十六番目 阿菟樓駄あどろだ

このお弟子さんは阿那律あなりりという名前で一般的に知られている。お釈迦さまのいとこだと言われている。

阿菟樓駄は出家する前に、兄か自分かどちらかが出家しなくてはいけない選択に迫られた。そこで自分が出家し仏道を歩もうと決意された。

自分の力で努力して悟りを開こうとしたが、いつこうに開けずにいた。

「真実の真理を見ることができるときには、欲望を抑え、足ることを知り、静かなところに居て、心を散らさずに仏法を聞くが大事である」

という考えで修行をしていた。しかし、お釈迦さまの説教の最中に居眠りをしてしまったのである。そのことにお釈迦さまは悲しみ、阿菟樓駄に対してお釈迦さまの前では決して眠らないという戒律を与えた。しかし、阿

菟樓駄はその戒律を異常なまで実践しすぎたため、お釈迦さまから戒律を免除されたにもかかわらず実践し続けた結果、失明してしまった。真剣な性格のために視力を失ったが天眼を得た。天眼第一と言われるようになった。肉眼では見えなかった真実も、視力を失って真実に触れることができるようになった。自分の目で真実を見てやろうという思いも、自分の目を失った時に、真実の方から阿菟樓駄のもとに光が差し込んできたのである。

.....

以上、仏説阿弥陀経に登場する十六人の仏弟子を紹介してきました。今回で完結となります。

廣讚寺ジャーナルの連載された発行号を以下の通りです。

- | | |
|--|--|
| 一、舍利弗 <small>しゃりぼつ</small>第三十号 | 九、阿難陀 <small>あんだ</small>第四十四号 |
| 二、摩訶目犍連 <small>まかもけんれん</small>第三十号 | 十、羅喉羅 <small>らごら</small>第四十八号 |
| 三、摩訶迦葉 <small>まかかしょう</small>第三十一号 | 十一、憍梵波提 <small>きょうぼんはだい</small>第四十九号 |

真宗の豆知識

浄土真宗において報恩講が一番大事な行事です。

浄土真宗にはいくつかの派があります。廣讚寺は真宗

大谷派です。その他、通称『お西』と呼ばれる浄土真宗

本願寺派をはじめ真宗高田派など各派があります。

本山で行われる報恩講は『御正忌』ごしょうぎといひます。親鸞

聖人の祥月命日のお勤めです。しかし、その日程が各派

によつて異なります。

親鸞聖人は十一月二十八日に亡くなりましたが、それ

は陰暦で、新暦では一月十六日にあたります。そこで、

本願寺派（お西）・高田派は新暦に合わせ一月九日から

十六日に御正忌が勤まります。真宗大谷派や仏光寺派、

興正派、木辺派などは十一月二十一日から二十八日に行

います。

四、摩訶迦旃延まかかせんねん・・・第三十二号

十二、賓頭盧頗羅墮びんずるはらだ・・・第五十三号

五、摩訶俱絺羅まかくぢら・・・第三十三号

十三、迦留陀夷かるだい・・・第五十四号

六、離婆多りはだ・・・第三十四号

十四、摩訶劫賓那まかこうひんな・・・第五十五号

七、難陀なんだ・・・第三十六号

十五、薄拘羅はくら・・・第六十号

八、周利槃陀伽しゅうりはんたか・・・第四十二号

十六、阿菟樓駄あどるだ・・・第六十一号



撮影：角田順子

東日本大震災から二年以上が経つ。この名古屋の地にて、だんだんと記憶が薄れてきている中、こんな言葉を思い出した。この震災を「二万人が死んだ一つの事件」と考えると、被害者のことをまったく理解できないんだよ。

人の命は、二万分の一でも八万分の一でもない。

そうじゃなくて、そこには「二人が死んだ事件が二万件あった」ってことなんだよ。(ビートたけし)

《行事予定》：四月

四月 五日(金) 二時～四時 常任委員会

十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会
(役員は六時半)

十四日(日) 十時～一時 廣讚寺子供会

十九日(金) 二時～四時 学習会

二十一日(日) 同朋会旅行

(三重県高田派本山 専修寺)

二十八日(日) 朝 おみがき

二十八日講・総会

【二十組行事】

四月二十日(土) 一時～五時 推進員養成講座

《行事予定》：五月

五月五日(日) 復興永代経執行

十時 おつとめ おとき

説教 勅使英照師

※午後は特別プログラムとして

有志による詩吟・民謡・舞踊など

廣讚寺座による演劇もあります

五月十一日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(日) 二時～四時 学習会

二十八日(火) 十時 二十八日講・女人講